第２章
江東区の
現状と課題

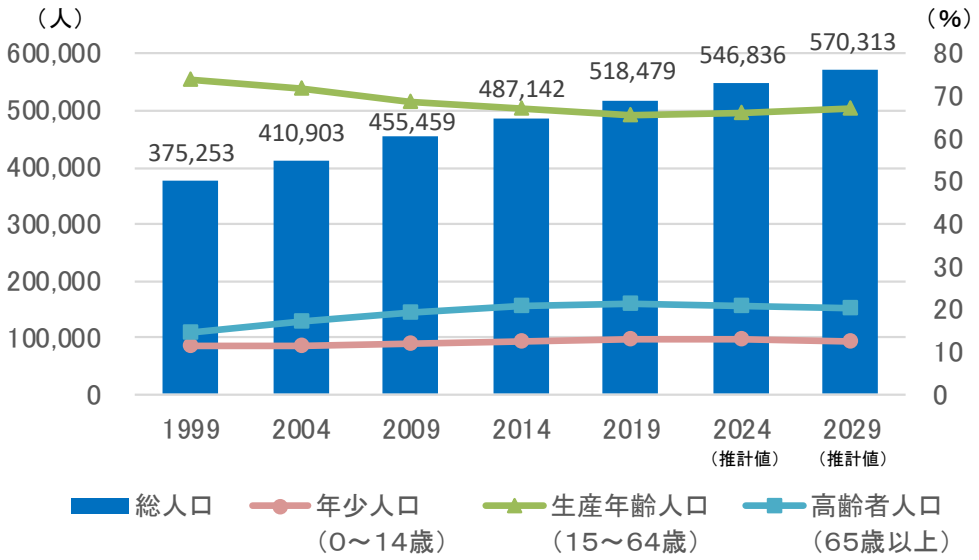
１．スポーツをとりまく区の動向

（１）人口推移と将来人口推計

江東区の人口は増加傾向にあり、この 20 年間で 14 万人強の人口が増えています。今後も人口増加は継続し、2029 年時の将来人口推計では 57 万人を超えることが見込まれています。

年齢３区分別の人口比率は 2029 年までに大きな変化は見込まれていませんが、高齢者人口は 2014 年に２割を超えており、全体の人口増加に伴い、65 歳以上の区民は増加していくことが見込まれています。

より多くの区民がスポーツを楽しみ、健康を保持・増進していくためのスポーツ施策の重要性が高まっています。



出典：江東区長期計画（各年１月１日現在）

（２）江東区長期計画

● 個性を尊重し、活かしあう地域社会づくり「14 スポーツを楽しめる環境の充実」

【目指す姿】

こどもから高齢者まで世代や障害の有無に関わらず、身近にスポーツを楽しめる機会と環境が確保され、スポーツの持つ力により、誰もが生き生きと暮らせる地域社会が形成されています。

［取組方針］

１．区民のスポーツ活動の促進

○こどもから高齢者まで世代や障害の有無に関わらず、区民が主体的にスポーツに取り組み、継続して活動できるよう、スポーツに親しむきっかけづくりやスポーツ団体の育成、相互交流等の支援を充実させます。

○ソフト面におけるオリンピック・パラリンピックのレガシーを活用し、区民のスポーツに対する意識向上を図るとともに、関係団体が蓄積した知識・技能・経験を活かし、区民のスポーツ活動の促進に取り組みます。

２．スポーツのしやすい環境の整備

○区立スポーツ施設や設備の充実、利便性の向上を図り、誰もがスポーツに取り組み楽しむことができる環境を整備します。

○都立や民間のスポーツ施設との連携を図ります。

○オリンピック・パラリンピックの競技施設を活用し、スポーツのしやすい環境の整備に取り組みます。

（３）江東区のブランドコンセプト

区では平成 28 年に国内外に区の魅力を積極的・戦略的に発信するために、ブランド化する事業やＰＲ等についてまとめた「江東区ブランディング戦略」を策定しました。

江東区ブランディング戦略の目的は、ブランドコンセプト及びロゴマーク等の普及を通じて、区の魅力を国内外に広くＰＲし、多くの人に、「江東区を訪れてみたい」「江東区に住んでみたい」と思ってもらうとともに、東京 2020 オリンピック・パラリンピックの競技観戦を目的とした来訪者に、多様な魅力あるまちとしての江東区を強く印象付け、今後も継続的に江東区を訪れてもらうリピーターづくりを行うことです。

さらに、ブランドコンセプトを多くの区民が共有し、区に対する誇りを改めて感じてもらい、「江東区に住み続けたい」と思う文化的土壌を育成します。

■ブランドコンセプト

SPORTS & SUPPORTS
KOTO City in TOKYO
スポーツと人情が熱いまち 江東区

■ロゴマーク

２．江東区のスポーツ施設の状況

（１）江東区内の主な公立スポーツ施設一覧

設置	種別	名　称	施設内容	No.
区立	体育館	スポーツ会館	体育室、プール、トレーニング室、サウナ室、柔道場、剣道場、弓道場	①
		深川スポーツセンター	体育室、トレーニング室、柔道場、剣道場、弓道場、クライミングウォール	②
		亀戸スポーツセンター	体育室、プール、トレーニング室	③
		有明スポーツセンター	体育室、プール、トレーニング室	④
		東砂スポーツセンター	体育室、プール、トレーニング室	⑤
		深川北スポーツセンター	体育室、プール、トレーニング室	⑥
	陸上競技場	夢の島競技場	日本陸連第２種公認施設、トラック（１周400m×８レーン）、フィールド（サッカーコート）	⑦
	野球場	夢の島野球場	12 面（うち４面は少年用）	⑧
		夢の島東少年野球場	２面	⑨
		亀戸野球場	２面	⑩
		潮見野球場	４面（軟式２面、ソフト２面）	⑪
	運動場	少年運動場	７面（辰巳：２面、南砂：２面、亀戸：２面、千石：１面）	
		新砂運動場	第１運動場、第２運動場、多目的運動広場、サッカー場、ターゲットバードゴルフ場	⑫
	テニスコート	庭球場	22面（深川：２面、豊住６面、潮見：１面、亀戸：２面、東砂：２面、荒川・砂町：５面、新砂：４面）	
	プール	越中島プール	大プール（50m×17m）、小プール（17m×７m）	⑬
	公園	竪川河川敷公園	カヌー・カヤック場、フットサル場、親子でキャッチボール場、パターゴルフ場、グラウンドゴルフ場	⑭
都立	公園	夢の島公園	体育館、プール、アーチェリー場	⑮
	テニスコート	亀戸中央公園	テニスコート４面	⑯
		猿江恩賜公園	軟式野球場２面、テニスコート８面	⑰
		木場公園	テニスコート６面	⑱
	公園その他	大島小松川公園	少年野球場３面	⑲
		辰巳の森海浜公園	ニュースポーツ施設、ラグビー練習場	⑳
		若洲海浜公園	ヨット訓練所	㉑
			若洲ゴルフリンクス、サイクリングコース	㉒
オリンピック・パラリンピック会場		有明アリーナ（恒久）	バレーボール、車いすバスケットボール	㉓
		有明体操競技場（仮設）	体操（体操、新体操、トランポリン）、ボッチャ	㉔
		有明アーバンスポーツパーク（仮設）	自転車（BMX レーシング、フリースタイル）、スケートボード	㉕
		有明テニスの森（既存）	テニス、車いすテニス	㉖
		青海アーバンスポーツパーク（仮設）	スポーツクライミング、バスケットボール（３×３）、５人制サッカー	㉗
		海の森クロスカントリーコース（仮設）	馬術（総合馬術、クロスカントリー）	㉘
		海の森水上競技場（恒久）	カヌー（スプリント）、ボート、パラカヌー、パラボート	㉙
		夢の島公園アーチェリー場（恒久）	アーチェリー、パラアーチェリー	㉚
		東京辰巳国際水泳場（既存）	水泳（水球）	㉛
		東京アクアティクスセンター（恒久）	水泳（競泳、飛び込み、アーティスティックスイミング）、パラ水泳	㉜

（２）江東区スポーツ施設マップ

３．区民のスポーツ活動の実態

（１）スポーツ推進に関する調査の概要

区民のスポーツ・運動の実施状況や意識を調査するとともに、スポーツ関係団体等の実態を調査し、江東区におけるスポーツ推進の現状と課題を把握することを目的としてアンケート調査とヒアリング調査を実施しました。

①区民アンケート

調査対象	18 歳以上の江東区民　2,500 人
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
調査期間	2019 年7月5日（金）～7月 31 日（水）
調査方法	郵送配付･回収
回 収 数	1,017 人（回収率 40.7%）
調査項目	･スポーツ実施状況について ･今後やりたいスポーツ･運動について ･東京 2020 オリンピック･パラリンピックについて ･地域スポーツ振興について ･スポーツ･運動に関するボランティアについて ･スポーツ･運動に関する情報について ･今後のスポーツ振興･推進に向けて

②障害者施設アンケート

調査対象	江東区内に所在する障害者施設　96 施設
調査地域	江東区全域
調査期間	2019 年7月 24 日（水）～8月9日（金）
調査方法	郵送配付･回収
回 収 数	58 件（回収率 60.4%）

③スポーツ関係団体、障害者施設ヒアリング

調査対象	スポーツ推進に関連する活動･事業を行っている組織　9団体
調査期間	2019 年9月 12 日（木）～10 月 18 日（金）
調査方法	対面でのヒアリング
調査項目	･団体、組織について ･利用者のスポーツ実施状況について ･他の団体等との連携について ･課題だと感じていることについて ･区に対する要望、施策に対するご意見

（２）スポーツ推進に関する調査の結果

①スポーツの実施状況について

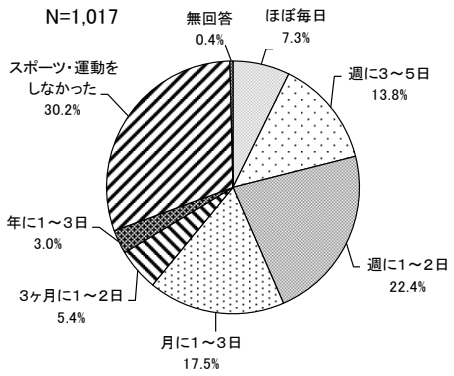
○成人の週１回以上のスポーツ実施率は 43.5%（平成 26 年 4 月時点は 42.5%）

○スポーツ・運動を「実施しなかった」区民は 30.2%

○30、40 歳代で週１日以上スポーツを実施している人は少ない

○「現在、スポーツ・運動を行っていない。また、これから先も、するつもりはない。」区民は 6.7%

スポーツ・運動の実施頻度



年代別のスポーツ実施率

	合計	週１日以上スポーツ実施率（%）
全体	1,017	43.5
18、19歳	12	66.7
20～29歳	64	37.5
30～39歳	146	32.2
40～49歳	245	36.7
50～59歳	224	44.2
60～69歳	186	51.6
70～79歳	101	58.4
80歳以上	33	45.5
年齢無回答	6	

【参考】※2

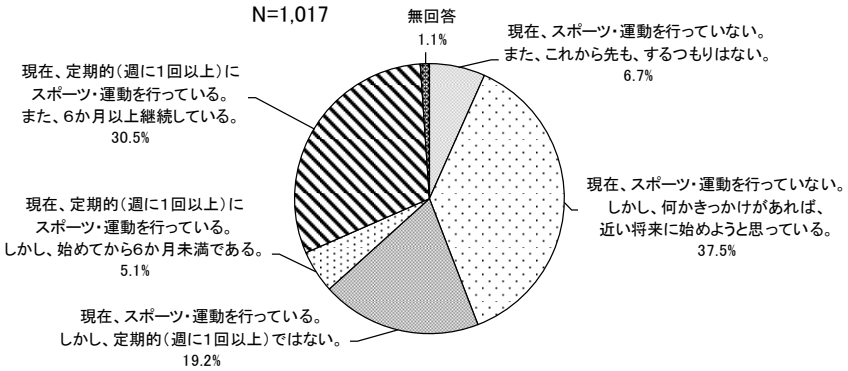
国のスポーツ実施率　　：55.3%

出典:スポーツの実施状況等に関する世論調査(平成 31 年 1 月)、スポーツ庁

東京都のスポーツ実施率　：57.2%

出典:都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査(平成 31 年 2 月)、東京都

スポーツ・運動の実施状況や考え方

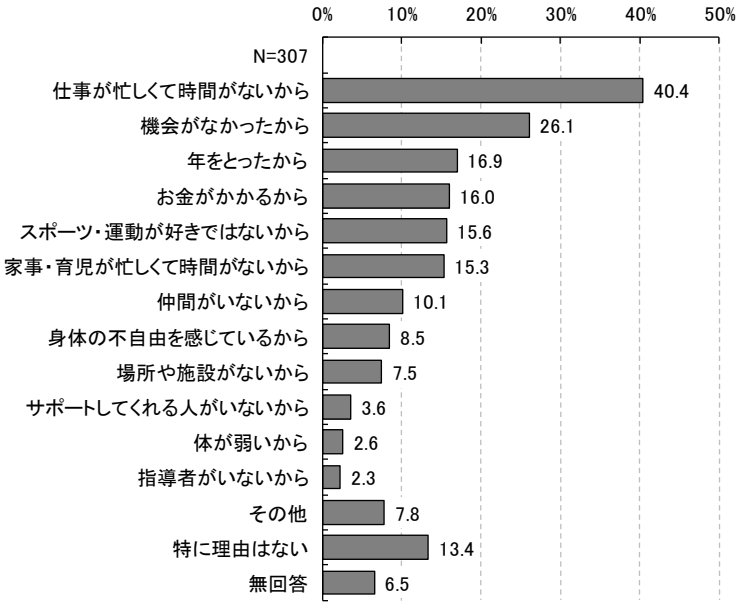


出典：スポーツ推進に関するアンケート調査（区民向け）

※2 スポーツ実施率を算出するにあたり江東区と国・都ではアンケート調査の設問構成が異なります。このことから、数値の比較は参考までとします。

○スポーツ・運動をしなかった理由は「仕事が忙しくて時間がないから」が最も多く40.4%

スポーツ・運動を実施しなかった理由

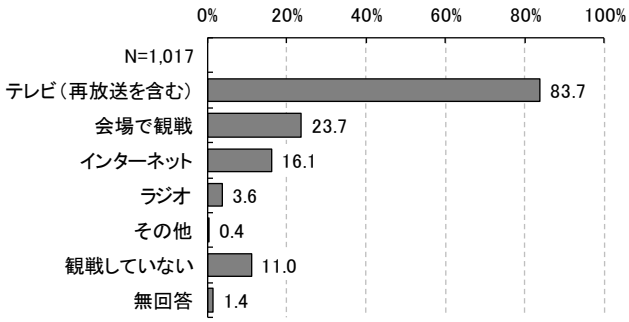


出典：スポーツ推進に関するアンケート調査（区民向け）

②スポーツの観戦状況について

○スポーツを「テレビで観戦」した人は83.7%、「会場で観戦」した人は23.7%

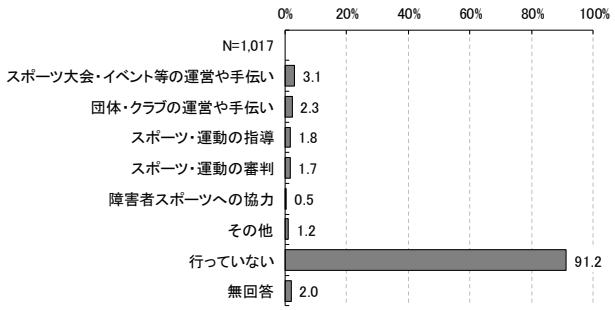
○「観戦していない」人は11.0%



出典：スポーツ推進に関するアンケート調査（区民向け）

③スポーツ・運動に関するボランティアについて

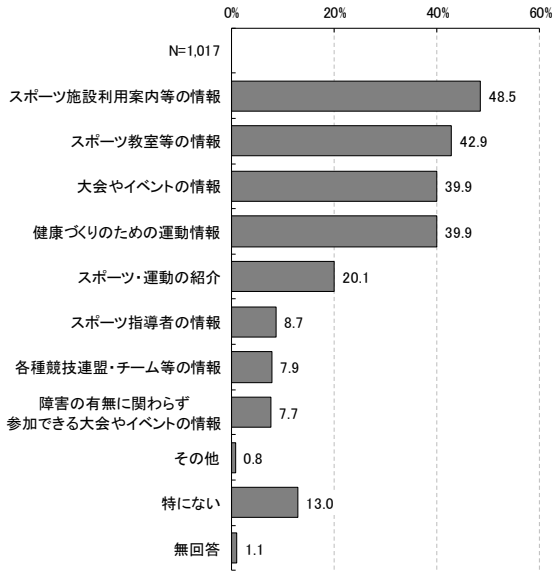
○この１年間にスポーツ･運動に関するボランティアを「行っていない」区民は91.2%



出典：スポーツ推進に関するアンケート調査（区民向け）

④スポーツ・運動に関する情報について

○知りたい情報として「スポーツ施設利用案内等の情報」が最も多く48.5%

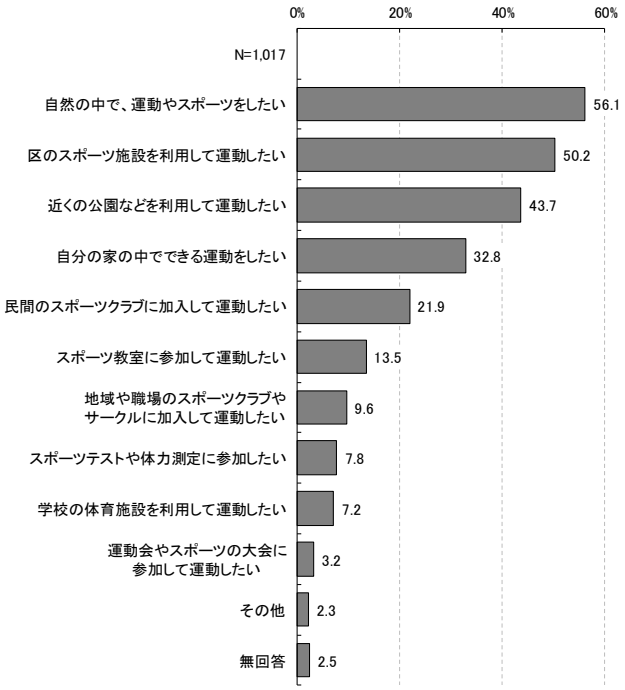


出典：スポーツ推進に関するアンケート調査（区民向け）

⑤今後やりたいスポーツ・運動について

○「自然の中で、運動やスポーツをしたい」「区のスポーツ施設を利用して運動したい」という回答が半数を超えている

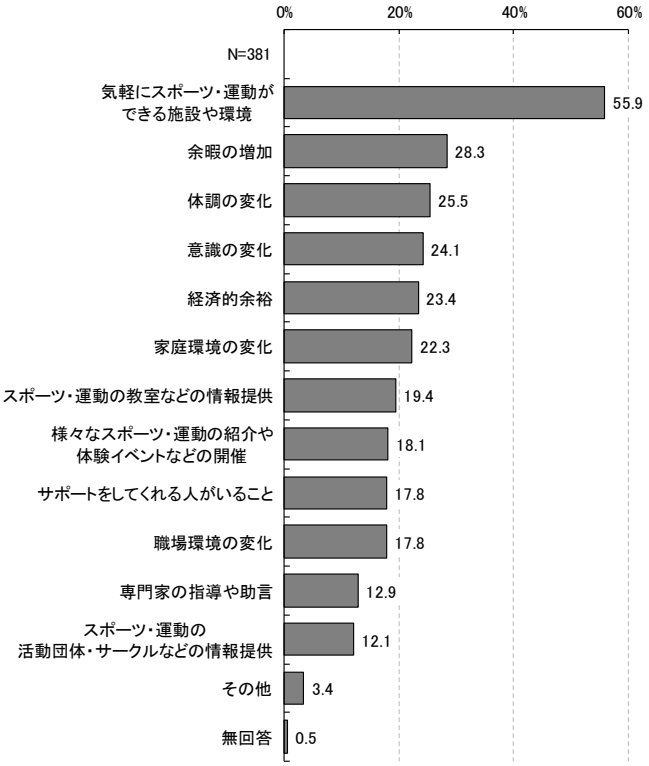
行いたいと思うスポーツ・運動



出典：スポーツ推進に関するアンケート調査（区民向け）

○はじめるきっかけとして「気軽にスポーツ・運動ができる施設や環境」が最も多く55.9%

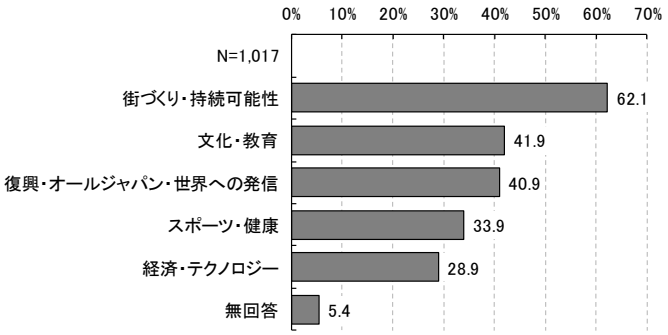
スポーツ・運動をはじめるきっかけ



出典：スポーツ推進に関するアンケート調査（区民向け）

⑥東京 2020 オリンピック・パラリンピックのレガシーについて

○レガシーとして掲げられている５本の柱のうち一番期待するのは「街づくり・持続可能性」が最も多く 62.1%

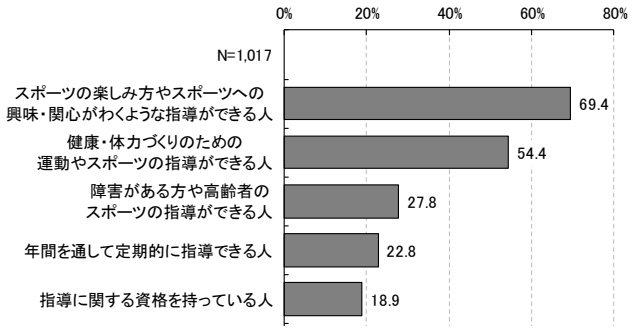


出典：スポーツ推進に関するアンケート調査（区民向け）

⑦地域スポーツ振興について

○どのようなスポーツ指導者が必要だと思うかについて「スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心がわくような指導ができる人」が最も多く 69.4%

スポーツ・運動を行うにあたって、どのようなスポーツ指導者が必要だと思うか（※上位５件）



出典：スポーツ推進に関するアンケート調査（区民向け）

⑧スポーツ関係団体、障害者施設ヒアリングの要点

他の団体等との連携について

・区内に大企業があることから、今後接点を持てるとよいと考えている。
・特別支援学校と連携し、植栽管理のボランティアを行った。
・間にコーディネーターが入ってくれると実現できると感じている。

課題だと感じていること

・運営メンバーの高齢化への対応が必要になってくると感じている。
・障害者にとってハードルの低いスポーツが広まっていくとよい。「障害者が身近な場所で気軽にスポーツを行う」環境を充実していくにはまだ課題が多くあると感じている。
・親子で「みる」「支える」スポーツの機会を増やしていくなど、日常生活の中にスポーツを取り込んでもらう工夫が必要だと感じている。
・スポーツの場の確保が課題となっている。
・成人のスポーツ実施率が低いことに関しては、企業と連携した機会創出が重要になると考えている。

江東区における区民のスポーツを推進するにあたっての要望や施策に対するご意見

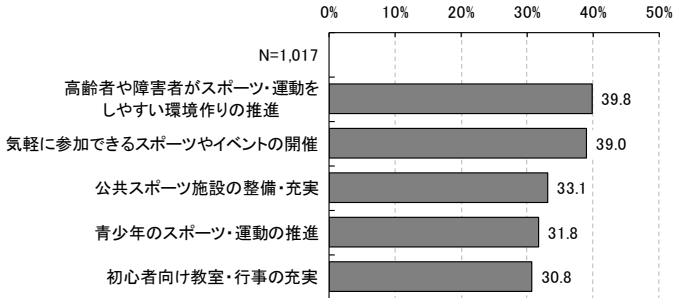
・スポーツの定義を考える時に「人生が豊かであると感じる視点（コンテンツ）のひとつにスポーツがある」ということを念頭に置けるとよいと感じている。
・トップスポーツの活用を区が主導していけるとよい。

⑨今後のスポーツ振興・推進に向けて

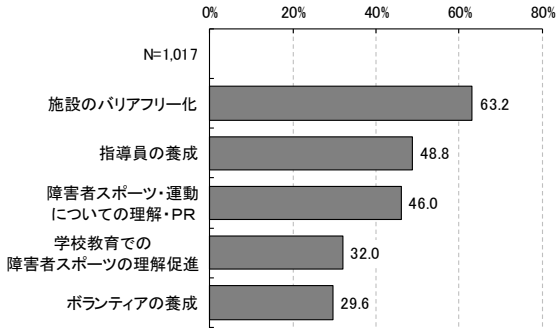
○今後江東区が推進すべきと思う施策は「高齢者や障害者がスポーツ・運動をしやすい環境作りの推進」「気軽に参加できるスポーツやイベントの開催」が多い

○障害者スポーツ・運動の振興を図るために必要だと思うことは「施設のバリアフリー化」が最も多く 63.2%

今後江東区が推進すべきと思う施策（※上位５件）



障害者スポーツ・運動の振興に必要だと思う施策（※上位５件）



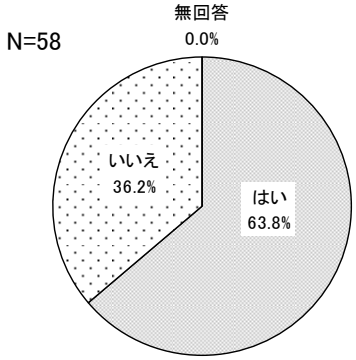
出典：スポーツ推進に関するアンケート調査（区民向け）

⑩障害者施設におけるスポーツ・運動と交流の機会

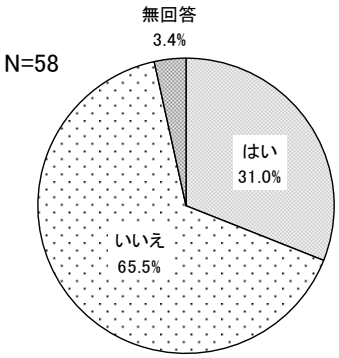
○施設利用者の方が恒常的にスポーツ・運動を行う機会はあるという施設は 63.8%

○スポーツ・運動に関連して、他団体等と交流することはあるという施設は 31.0%

施設利用者の方が恒常的にスポーツ・運動を行う機会はあるか



他団体等と交流することはあるか



出典：スポーツ推進に関するアンケート調査（障害者施設向け）

４．課題と対応の考え方

（１）スポーツ推進の課題

区民アンケート等の基礎調査結果をもとに、今後のスポーツ施策の課題について以下のようにまとめました。

◆区民のスポーツ・運動の推進

- ●今後も人口増加が見込まれていることから、地域における区民のスポーツの場・機会の確保が求められています。
- ●スポーツの参画人口を拡大していくためにはスポーツを「実施しなかった」区民の運動不足解消や健康づくりとスポーツに「無関心」、「関心はあるがしていない」区民の行動変容を促す取組が必要です。
- ●区民のスポーツ実施率を向上していくためには、実施率の低い 30、40 歳代への取組とともに、将来を担うこどもの運動習慣の定着、体力向上が必要です。

◆身近なスポーツ環境の整備

- ●アンケートではスポーツの実施場所として道路・共用スペースが多く挙げられています。公園等を活用し、身近な場所で安全に・安心してスポーツを行うことができる環境を充実していくことが重要です。
- ●江東区報やインターネットを用いて情報を入手する人が多いことから紙面、ＷＥＢを活用してより多くの区民に効果的に情報を提供していくことが重要です。

◆スポーツを通じた共生社会の実現に向けた取組の推進

- ●区民の誰もが身近で利用しやすい施設環境の整備が求められています。
- ●多様性を認め合う共生社会の実現に向けて、障害者スポーツへのさらなる理解促進等が求められています。また、区民の身近な場所での心のバリアフリーの推進も重要であるといえます。
- ●障害者のスポーツに理解のある指導者の育成・活用が求められています。
- ●ボランティアを行っていない区民が９割以上となっていることから、スポーツを支える視点から関心を喚起する取組が必要であるといえます。

◆人材・組織の育成、連携・協働の取組の推進

- ●スポーツの楽しみ方を指導し、興味・関心を深めていくことのできる指導者の育成と活動の場の充実が求められています。
- ●総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員の認知度向上・活躍の場の充実とともに学校・家庭・地域で連携し、区民のスポーツを支えていくことが求められています。
- ●トップスポーツチーム・アスリートとの連携・協働のしくみづくり、体制の充実が求められています。

◆スポーツを通じたまちの魅力、地域の活力向上

- ●カヌーやカヤックを身近な場所で気軽に体験できる環境の充実が求められています。
- ●地域コミュニティの醸成、まちの魅力向上につながるトップスポーツチーム・アスリートと連携・協働したまちのブランディング、プロモーションが重要といえます。
- ●事業者と地域団体をコーディネートできる人材の育成・活躍の場の充実が求められています。

◆東京 2020 大会のレガシーの継承

- ●大会を契機として盛り上がったスポーツの気運をレガシーとして継承していくことが重要です。
- ●ソフト、ハード両面からレガシーを継承していくことが必要です。
- ●スポーツをより身近に感じられる環境を、東京 2020 オリンピック・パラリンピック終了後も引き続き残していく必要があります。

（２）課題対応の考え方

今後のスポーツ施策の課題に対する対応の考え方について以下のように整理しました。

①区民のスポーツへの参加のきっかけを拡充する

- ○こども、成人、高齢者といったライフステージとともに、勤労者、子育て期の保護者、障害のある人など、個人の状況に応じてスポーツに参加できる機会を充実していく。
- ○関心の度合い・レベルに応じて気軽にスポーツ・運動に取り組める機会を充実していく。
- ○障害者のスポーツに対する理解促進、関心喚起に取り組んでいく。
- ○東京 2020 オリンピック・パラリンピックのレガシーをソフト、ハード両面で継承していく。
- ○心身の健康づくりにつながるスポーツを推進していく。

②身近な場所でスポーツにかかわりをもてる環境を充実する

- ○生活に身近な場所で、区民の誰もが安全・安心、気軽にスポーツ・運動ができる環境を充実していく。
- ○江東区の豊かな水辺の環境を活かしたスポーツ推進に取り組んでいく。
- ○施設の利用案内や教室・イベント等の情報を効果的に発信し、より多くの区民に多様な手段で情報を届ける。
- ○トップスポーツチーム・アスリートと連携・協働して「みる」スポーツへの関心喚起、行動変容に取り組んでいく。

③スポーツを支える人材・組織の連携・協働の取組を推進する

- ○スポーツを支える人材・組織を育成・支援するとともに活躍の場を充実する。
- ○こどもの体力・運動の能力の向上、スポーツの習慣化を支える人材の育成と活躍の場・機会を充実していく。
- ○トップスポーツチーム・アスリートとの連携・協働を図り、区民のスポーツへの関心喚起、行動変容を促す。

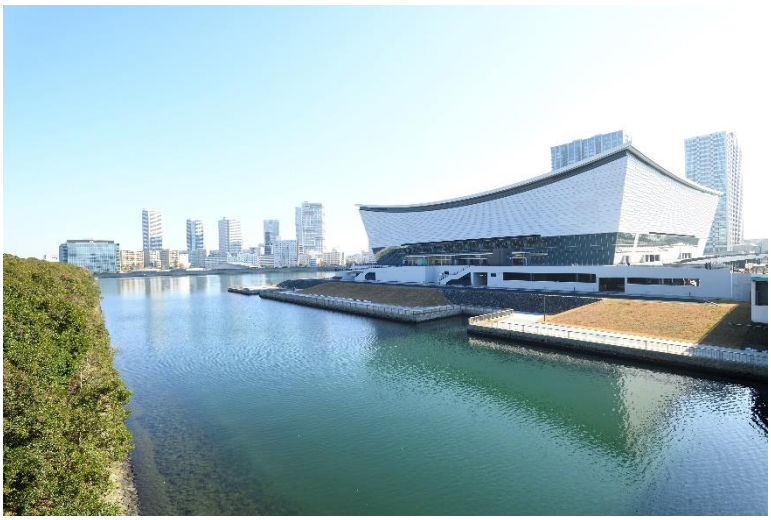
④スポーツを通して地域コミュニティを活性化する

- ○スポーツを通した世代間・地域間の交流を促進する。
- ○学校・家庭・地域で連携し、スポーツの取組を推進していく。
- ○スポーツイベント等において、まちの魅力を発信する取組を推進する。
- ○区内事業者、地域団体等をつなぐ場や機会を充実していく。
- ○トップスポーツチーム・アスリートと連携・協働して「みる」スポーツへの関心喚起、行動変容に取り組んでいく。【再掲】

【コラム２】江東区内の東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会　競技会場

有明体操競技場【体操、ボッチャ】

有明テニスの森【テニス、車いすテニス】



有明アリーナ【バレーボール、車いすバスケットボール】